



カラオケの発明で『平和賞』

自民党政務調査会 副会長
名誉顧問 藤井基之



今年もまた、日本人がノーベル賞を受賞しました。梶田隆章東京大教授がニュートリノ振動の発見で物理学賞を、熱帯感染症の特効薬イベルメクチンの開発で大村智北里大特別栄誉教授が生理学・医学賞を受賞しました。昨年は、青色発光ダイオードの発明で赤崎勇名城大終身教授、天野浩名古屋大教授、中村修二米カリフォルニア大サントババーラ校教授が受賞しましたが、二年連続の快挙です。これで日本人のノーベル賞受賞者は科学系で二十一一人（総数は二十四人）。日本の持つ科学技術の力を実感しました。

ところで、このノーベル賞に対し、「イグ・ノーベル賞」という賞があるそうです。ノーベル賞は、ご存知のように、スウェーデンのダイナマイトを発明した化学者、アルフレッド・ノーベルの遺言で設立された、世界で最高の権威を持つ賞です。

これに対し、「イグ・ノーベル賞」は、サイエンス・ユーモア雑誌が企画したもので、一九九一年から始まり、ユーモアや笑いを誘う研究に対して与えられ、毎年十月、十の個人やグループに対して授与されています。賞は、時には政治的皮肉を込めた研究もあったりして、同賞に批判的な声もないではないようです。しかし、授与された研究は学術的にもしっかりした、科学的根拠を持つもので、その成

果が産業化されたり、実用化されたものもたくさんあるそうです。工学賞、物理学賞、医学賞、心理学賞、化学賞、文学賞、経済学賞、学際研究賞、平和賞、生物学賞などの部門があります。実は、このイグ・ノーベル賞でも日本人が九年連続で授賞しています。まず、イグ・ノーベル賞とは具体的にどんな研究に対し授与しているのか。例えば、次のような研究が受賞しています。

○心理学賞（二〇一三年）

酔っぱらったと思っている人は、同時に自分は魅力的だと思っていることを、実験により確認した。（フランスの学者ら）

○医学賞（二〇一四年）

止血しにくい、難病の患者の鼻血を止める治療法として、「塩漬け豚肉の一切れを添えた鼻腔タンポンの挿入」法を確立した。（アメリカの学者ら）

○生物学賞（二〇一四年）

犬が排便、排尿をする際、体を地磁気の南北軸に沿わせるのを好むという注目を集めた記録した。（チェコ生命科学大学の学者ら）

○心理学賞（二〇一四年）

習慣的に夜遅くまで起きている人は、朝早く起きている人に比べて、平均的に、より自己賞賛的で、より巧みに他人を操り、口が達者で表面は魅力的であることの証拠を

らばっています。例えば次のような研究で受賞しています。

○平和賞（二〇一二年）

コンピュータによって自動的にイヌ語をヒト語に翻訳する機械を発明し、動物と人との平和と調和を促進した。（小暮動物病院常任理事ら）

○平和賞（二〇一四年）

カラオケを発明し、人々がお互いに許容しあう、全く新しい方法を提供した。（井上大佑（大阪府））

○平和賞（二〇一一年）

「平和の場」を作ったからだとそうです。火災など緊急時に眠っている人を起こすのに適切な空気中のわずかの濃度を発見し、これを利用したわざび警報装置を開発した（聴覚障害者に有効な、匂いによる警報システムの開発につながった）。（今井真滋 賀医科大学講師ら）

○医学賞（二〇一三年）

心臓移植手術を受けたマウスに、オペラ「椿姫」を聴かせたところ、モーツァルトなどの音楽を聴かせたマウスや何も聴かせなかったマウスよりも拒絶反応が抑えられ生存期間が延びた。（内山雅照順天堂大学・帝京大学ら）

○物理学賞（二〇一四年）

人間がバナナの皮を踏んでしまうとなぜ転ぶのか。バナナの皮の内側には「小胞ゲル」と呼ばれる粒状の物質があり、踏みつけると粘液が出て摩擦が小さくなるため、バナナの皮の内側を下に向けて踏むと内側を上にした場合よりも滑りやすくなることを確認した。（馬淵清資（北里大学）ら）

○化学賞（二〇一四年）

タマネギが人間の目から涙を出させる生化学的な過程を研究、タマネギに含まれる

る有機硫黄化合物がある酵素で分解されて、催涙成分を生み出す過程に、タマネギのみに含まれる「催涙因子合成酵素」が働いていることを突きとめた。その後、この研究をベースに、遺伝子組み換えで「涙の出ないタマネギ」の開発に成功したそうです。（ハウス食品の研究者ら）

○医学賞（二〇一五年）

キス、その他の親密な人間相互間の行動の、生物医学的な結果を研究。アトピー性皮膚炎やアレルギー性鼻炎を持つ患者に、恋人と三十分キスをしてもらい、キスの前後でアレルギー反応の強度を検査したところ、キスの後ではアレルギー反応が弱まったことが明らかになった。（木俣肇 医師ら）

日本の科学力、技術力の強さは、こうした多様な、奔放な発想、自由な研究心こそが基盤があるのかもしれない。大事にしな

藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 2回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ

<http://www.mfujii.gr.jp/>

●その他 薬学博士・薬剤師

●私の政治信条

私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー：薬物乱用のない社会)社会創りです。

高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。

好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

●活動報告

参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

●経歴

- 昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
- 昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
- 昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
- 昭和44年 厚生省入省
- 平成9年 厚生省退官
- 平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス 振興財団 専務理事
- 平成12年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人日本薬剤師会 常務理事
- 平成13年 参議院議員（1期目）
- 平成16年 厚生労働大臣政務官
(平成16年9月～平成17年11月)
- 平成19年 日本薬剤師連盟 顧問
- 平成22年 参議院議員（2期目）
- 平成23年 参議院政府開発援助等に関する特別委員会 委員長
- 平成24年 自由民主党広報本部 副本部長
広報本部新聞 出版局長
- 平成25年 自由民主党党紀委員会 委員
裁判官弾劾裁判所 裁判員
- 平成26年 原子力問題特別委員会 委員長
文部科学副大臣
- 現在 自民党政務調査会 副会長